＜2008年(平成20年)9月15日発行　第25号＞

ふくろう新聞

＜発　行＞
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会
洲本市中川原町
中川原28番地1
TEL:0799-25-8550
FAX:0799-25-8551

みんないっしょにかかしづくり

8月31日(日)、地元中川原地区の地域交流会が主となり、入所者・地域の方々・ボランティアの方々、みんな一緒になってかかし作りをしました。

高さ2m近くある大きなかかしを10体作りました。

↑　できあがったかかしと一緒に、「ハイ、ポーズ！」

→　ふくろうかかし作成中。

ふくろうの郷のかかしだけに、ふくろうの顔に作りました。

古着を着せたり、塗料を塗ったり、髪の毛を付けたり、エプロンを付けたり、ポシェットをかけたりして、色とりどりのかかしが出来上がりました。

作ったかかしは、しばらくは施設敷地内に立てて、10月に行われる「ふくろう祭り」で、看板に使われます。

地域の皆様、ボランティア協力頂いた皆様、暑い中、作業いただきありがとうございました。

（介護：角村）

来月、10月26日は、ふくろう・ふれ愛まつりです。1年に1回のふくろうでの大きなおまつりですので、これから準備に追われますが、みんなで協力し合い、みなさんに楽しんでいただけるおまつりにしたいと思います。是非、来てね！

～海水浴～

8月18日から22日にかけて、入所者の皆さんは、炬口海水浴場に海水浴に出かけられました。

真夏の海は景色も良く、入所者の皆さんも「とても気持ちがいい」と喜んでおられました。

入所者の竹邊正晴さん、魚住登喜男さん、福島豊子さん、勝楽進さんは水着を着込み、真っ先に海に飛び込み海水浴を楽しみました。

他の入所者さんは、景色やそよ風を木陰で感じながら見学しました。

最後は、みんなでスイカ割りをして、スイカを食べて真夏の海を満喫しました。

（介護：角村）

送り火
～亡くなられた方を偲んで～

8月16日夕方から、「送り火」を行いました。送り火とは、お盆の行事の一つで、お盆に帰ってきた祖先の魂を現世からふたたびあの世へと送り出す行事です。淡路では各家で手製のたいまつをたき、一般的によく行われています。

ふくろうでもたいまつをたいて職員の神代さんがお坊さんの代わりに般若心経をお唱えし、入所者の皆さんと一緒に手を合わせて拝みました。

ふくろうの郷で亡くなられた方々を思い出しながら、拝みました。きっと笑顔で天国に帰られたことと思います。

（介護：角村）

星・海ユニット外出
とくしま動物園へ

7月24日、入所者9名、職員6名、ボランティア1名で「とくしま動物園」に行ってきました。

ふくろうの郷を出発して、1時間半ほどかけて到着しました。

動物園には「ふれあい広場」があり、リスザルなどの小動物を触れる場所がありました。

そのほか、コンドルや象、キリン、狼などいろいろな動物が見られてとても楽しそう。

お昼は外でお弁当を食べました。

いつもと雰囲気が違い、皆さん自然と笑顔になりました。

この日はとても暑く、白くまやヒョウなどの動物もグッタリしていて、皆さんにも疲れている様子が見られたので涼しい部屋で休憩をとりました。

「早めに帰ったほうがいいのかな」と心配していましたが、皆さんは少し休まれると「こんどはあっち！早く見に行こう!!」と職員よりも元気でした。

今回の外出は『動物園に行きたい』という入所者さんの声からの企画で、色々な動物を見て、入所者さんたちの普段では見られない表情を見させていただきました。

今後も入所者さんたちの希望を取り入れた企画をしたいと思います。

（介護：裏井）

デフ人形劇の観劇

8月30日(土)、ろう者と健聴者が共に演じる劇団「デフパペットシアターひとみ」の人形劇「じいちゃんのオルゴール」の公演を鑑賞に、入所者・職員30人が、三原公民館に行って来ました。

この人形劇は、ろう者も健聴者も共に楽しめるノーマライゼーション（障害者と健常者、お互いが特別に区別されることなく、社会生活を共にすることが本来の望ましい姿であるという考え方）の推進を目的としたものです。

小さな子供さんからお年寄りまで、会場はいっぱいでした。

劇は、現代の文明社会を風刺しつつ、ひとつのオルゴールを中心に大切な家族の絆を描いたものでした。

会場からは、ときおり笑い声も聞こえ、終始和やかなムードでした。

参加された入所者さんも「よかった」「楽しかった」と口々におっしゃっていました。

（介護：角村）

9月誕生会にて

9月4日（木）、9月生まれの入所者さんの誕生会を行いました。

その催しとして、中川原の安坂地域の踊りグループ「ゆめの鈴」に来所いただき、踊りを披露していただきました。

昨年に引き続き2回目のご来所です。ユニークな衣装での踊りや、みんなで一緒に手をたたく手遊びなど、いろいろな踊りを見せていただきました。

最後は「ゆめの鈴」、入所者、職員がみんな一緒に入り乱れて、阿波踊りをして締めくくりました。

入所者の皆さんは華やかな踊りを見て、楽しいひと時を過ごすことができ、大変うれしそうでした。

「ゆめの鈴」のみなさま、ご披露いただきありがとうございました。

9月13日には、地元中川原の保育園・小学校・中学校合同の運動会にも招待され、昨年同様、児童のみなさんと玉入れを楽しみました。

このように、これからも地域の方々との交流を増やしていきたいです。

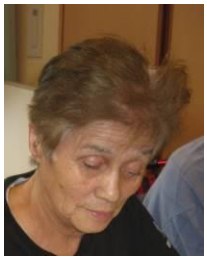
（介護：角村）

■ 黒崎　時安　さん
昭和4年9月2日
(79)

■ 山口　頭藏　さん
大正12年9月19日
(85)

■ 勝楽　進　さん
昭和4年9月16日
(79)

■ 丸添　恵美子　さん
昭和8年9月12日
(75)



食中毒の予防法

すごしやすくなってきました。

しかしこれからの時期、ノロウィルスなどウィルス性の食中毒が発生してきますので、まだまだ注意が必要です。

ノロウィルスは食中毒患者さんの嘔吐物に触って感染したり、ウィルスが空気中に散布し、それが口から体内に入って感染します。

だからこそ、日頃からの衛生管理・体調管理が食中毒予防につながります。

1．手荒い・うがい
2．食品はしっかり加熱調理（85℃、1分間）
3．作ったものはすぐに食べる（食べないときは冷蔵庫にしまう）

日頃から心がけて、食中毒予防しましょう

ひょうご聴障ネット　夏の学習会

- ひとまわり会員の輪を広げて
- ろう重複の仲間の入所施設を
- 県民局単位に地域聴覚障害者センターを

8月31日に新長田区民センターで開かれた学習会には200人を超える盛況で、パネリストの大阪聴覚障害者協会の清田会長からは、大阪府橋下知事・「平成維新」による福祉後退に障害者団体と統一行動を積み上げて反撃した経験から、兵庫の行革プランによる予算削減を復活させる運動を励ましてくださいました。

大阪は手話通訳養成の予算が約450万円に増額されたことや、今後、大阪ろうあ会館の地域センターを各地に整備していく課題に取り組んでいくと話されました。

パネリストの神戸ろうあ協会・廣瀬会長や嘉田情報センター所長からは、兵庫の今後の展望として、神戸ろうあハウスでの、ろう重複者の就労支援事業を、新たな公的な建物への移転によって拡充していくことや、県情報センターのブランチとして、県民局に地域聴覚障害者センターの整備などの夢が語られました。

そのために、ネット会員の輪をもうひとまわり広げていこうと申し合わされました。

淡路ふくろうの郷
第3回　ふくろう・ふれ愛まつり

平成20年10月26日（日）
10:30～14:30
淡路ふくろうの郷にて開催します！

みんなで作ったかかしがみなさんをお出迎え。
その他、舞台発表、模擬店など、楽しい催しがいっぱいあります。

お問い合わせは･･･
淡路ふくろうの郷　足立・濱田
TEL：0799-25-8550
FAX：0799-25-8551

第3回　ふくろう学習会

ノーマライゼーションをめざして
～きらくえんでの取組みから考える～

講　師：市川 禮子 氏
社会福祉法人きらくえん理事長
日　時：平成20年10月11日
13:30～16:00
場　所：淡路ふくろうの郷
地域交流スペース
参加費：５００円

【お問い合わせ】
淡路ふくろうの郷　濱田
TEL：0799-25-8550　FAX：0799-25-8551